



令和5年度 港区立中之町幼稚園経営計画

港区立中之町幼稚園長 大橋 美都子

1. はじめに

港区立中之町幼稚園は、明治23年5月に開園し、今年度133周年を迎える。地域に愛され、見守られながら長い歴史と伝統を育んできた園である。

令和4年夏、仮園舎から新園舎に移転し、2学期から新しい環境での教育活動が始まった。今年度は年少、年中組が単学級となり、2学級減の4学級、計81名の園児で教育活動がスタートした。

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難な時代となっている。このような時代を生き抜き、未来を切り拓いていく幼児を育てるために、幼稚園教育要領では幼稚園教育で育みたい3つの資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が明記されている。幼児期の教育の基本である「環境を通して行う教育」「遊びを通じた総合的な指導」を日々実践し、持続可能な社会の作り手となるべく、困難や挫折に向き合い乗り越えるたくましさ、様々な変化に柔軟に対応できるしなやかさのある幼児を育成していく。また、港区教育ビジョンを具現化するため策定された「港区学校教育推進計画」に示されているめざすべき子どもの姿「夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」を育成するために、○幼児が安全で安心して過ごすことができる幼稚園づくり ○幼児がいきいきと楽しく学ぶことができる幼稚園づくり ○保護者や地域に信頼される幼稚園づくり を目指していく。

2. めざす幼稚園

教育目標

げんきな子 かんがえる子 なかよくする子 がんばる子

目指す幼稚園像

幼児がたくましく、のびやかに、いきいきと育つ幼稚園

- 幼児がいきいきと主体的に遊びや生活を作り上げていく幼稚園
- 異年齢・地域・赤坂学園とのかかわりを通して育ち合うことができる幼稚園
- 133年の伝統を大切にしながら、変化に対応し、より良い保育を目指す幼稚園
- 保護者と幼児教育の大切さを共有し、共に子育ての喜びを感じられる幼稚園
- 地域や園内の魅力を活かした遊びと生活を展開する幼稚園
- 共に学び高め合い、連携のとれたチーム保育を行う教師集団のいる幼稚園

目指す幼児像

- 3歳児…基本的な身の回りのことが自分でできる喜びを感じられる幼児・安心感をもつてのびのびと自分の思いを表し、遊ぶことを楽しめる幼児
- 4歳児…自分のしたい遊びを見つけて繰り返し取り組み、楽しさや満足感を味わえる幼児・自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いを受け止めたりしながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえる幼児
- 5歳児…目的をもって粘り強く遊びに取り組み、思いや考えを実現する満足感を味わう幼児・友達と互いの良さを認め合いながら、共同して遊びや活動を進める楽しさややり遂げる達成感を味わえる幼児

3. 中期的目標(令和5年度～7年度)

○育みたい資質・能力の3つの柱に沿った幼・小中一貫した教育の推進

幼児の未来を見据え、幼児期にどのような体験が必要なのか改めて考えるとともに、幼稚園で育まれた資質・能力を小学校へ引き継いでいけるよう育ちを共有できるように連携を密にする。

○新園舎・新園庭での教育活動の確立

昨年度2学期から始まった新園舎での生活では、場の使い方や環境の作り方など、まだ模索中の状況である。1年間の生活を通したうえで新園舎での教育活動の基礎を築いていく。また、今後完成する新園庭の環境や活動の仕方の工夫、ビオトープの活用の工夫などを通し、新しい環境が十分に生かせるよう基礎作りをする。

○保護者・地域と協働し、愛され信頼される幼稚園づくり

133年の歴史の下、地域には卒園生や古くからの協力者が多数居住されている。5年目となる学校運営協議会制度を生かし、地域コーディネーターを中心に地域の教育力や人材を存分に生かし、保護者・地域との協働体制をさらに深めていく。

○専門性の向上を目指し、教育に情熱と使命感をもった教職員集団の育成

一人ひとりの教員が自らの目標を明確にもち、専門性の向上を目指して前向きに職務を遂行し、互いに資質を高め合える教職員集団を育てていく。

4. 今年度の取組目標と方策

○体を動かすことを楽しむ幼児の育成

1学期、園庭工事の最終工期を迎え、現仮園庭のスペースがさらに狭まることになる。限られたスペースの中で体の様々な部位を動かせる環境や活動を工夫するとともに、中学校のグラウンドや体育館などを借用し、広い場所でのびのびと体を動かせる時間も確保していく。新園庭の完成後には、固定遊具の使い方、場所の使い方、活動の選択、動線などを考慮し、全教職員で安全に活動できるようにする。また、昨年度末に設置されたボルダリングを好きな遊びの中で体験できる機会を増やしていく。

○赤坂アカデミーの連携の強化

赤坂アカデミーの連携を大切にし、保護者にも連携の様子を発信し、地域で教育を受ける意義を感じ取れるようにする。また、学校教育全体を貫いて明確化されている育成すべき資質・能力を理解し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を小学校教員と共有し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る。

○地域の施設や教育力を生かす

幼児、保護者が地域の方への感謝の気持ちを持ち、地域への愛着を感じられるように地域コーディネーターとの連携を深め、地域の人材を活用した活動を大切にしていく。また、隣接する檜町公園や東京ミッドタウン内広場、赤坂学園などの施設を有効利用し、幼児にとって豊かな体験ができるようにする。また、様々な運動体験ができるようラグビーや体操、バランスポールなどの講師を招聘し多様な活動ができるようにする。

○子育ての楽しさ、喜びを感じられる保護者へ

保育参観や保護者会、懇談会などを利用し保護者に園の教育内容を伝え、幼児の成長を知らせるとともに、保護者が子育ての楽しさや喜びを感じられるようにする。また、園便り、学級便り、ホームページ、ツイッター、スマホアプリ「コドモン」などを活用して、家庭では見えにくい幼児の生活の様子を写真や説明で丁寧に伝えていくようにし、遊びの重要性や遊びから学んでいること、幼児期に必要なことなどを理解してもらえるよう発信に努める。

○3年間の見通しをもった指導内容の充実した幼稚園に

3年間の成長を見通し、各年齢で必要な経験内容を確認し、既存の指導計画を新園舎新園庭バージョンに加除・修正していく。環境の使い方、行事の在り方や実施方法の改善等、全教員によるカリキュラム・マネジメントを行い、次年度の教育課程に生かす。

○チームとしての教職員集団づくり

園長自身、教職員と日常的にコミュニケーションを十分にとり、相談や話がしやすい雰囲気をつくる。教職員同士が互いの良さを認め合い、フォローし合い協働できるチームにしていく。また、業務軽減できることを工夫し、働き方改革につながり効率よく働き、心身ともに健康で、明るく前向きに職務を遂行できるようにする。

令和5年度 港区立中之町幼稚園 経営計画概要

園長 大橋 美都子

